資料編

１．人口・世帯の状況

図表資-1　校区・行政区別人口・世帯等

平成 29 年 3 月 31 日現在

ブロック別計	人口	内 65 歳以上人口	世帯数	高齢化率	世帯人員
渡計	1,381	509	509	36.9	2.7
1 区	89	33	35	37.1	2.5
2 区	435	102	138	23.4	3.2
3 区	278	107	101	38.5	2.8
4 区	247	104	91	42.1	2.7
5 区	332	163	144	49.1	2.3
渡西・高沢計	424	205	167	48.3	2.5
6 区	249	107	91	43.0	2.7
7 区	175	98	76	56.0	2.3
一勝地計	818	387	349	47.3	2.3
8 区	168	68	71	40.5	2.4
9 区	236	108	98	45.8	2.4
10 区	69	43	36	62.3	1.9
11 区	170	83	70	48.8	2.4
12 区	175	85	74	48.6	2.4
三ヶ浦計	588	255	218	43.4	2.7
13 区	246	103	82	41.9	3.0
14 区	127	58	56	45.7	2.3
15 区	215	94	80	43.7	2.7
神瀬計	652	281	271	43.1	2.4
16 区	190	82	77	43.2	2.5
17 区	154	68	60	44.2	2.6
18 区	114	43	45	37.7	2.5
19 区	68	38	35	55.9	1.9
20 区	47	19	22	40.4	2.1
21 区	79	31	32	39.2	2.5
総計	3,863	1,637	1,514	42.4	2.6

２．熊本地震の被災状況

１）熊本地震の概要

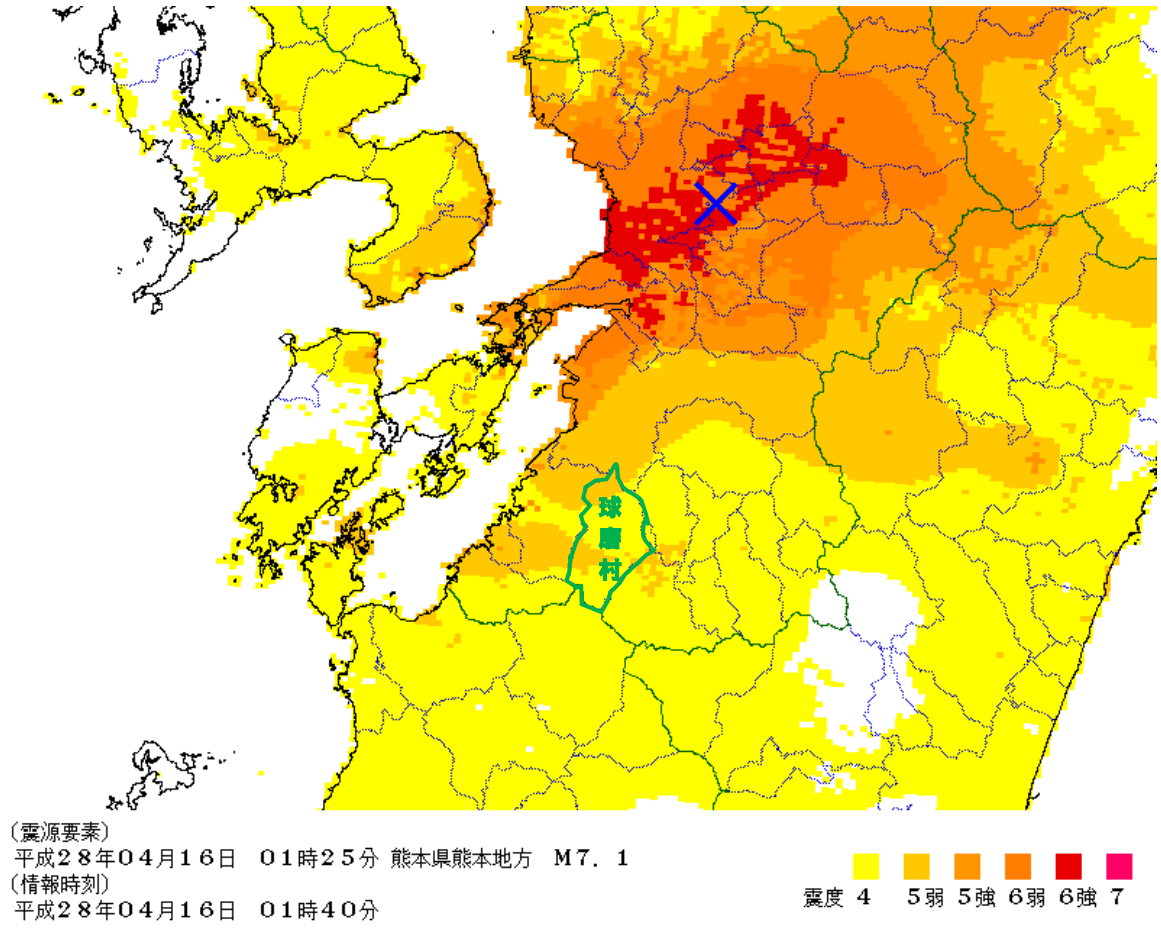
平成 28 年 4 月 14 日 21 時 26 分に益城町で最大震度 7 を観測する地震**前震**が発生しました。

翌々日である 4 月 16 日 1 時 25 分には、益城町・西原村で最大震度 7 を観測する地震**本震**が発生しました。

震度 7 を 28 時間以内に２回観測したのは我が国の観測史上、初めてのことです。

本震時の本村の震度は次図のとおりで、震度 5 弱から震度 4 でした。

図表資-2　本震震度分布図



資料：気象庁

２）球磨村の被害概要

熊本地震による本村の被害は次のとおりで、人的被害・住家被害は顕著ではありませんでしたが、予防的に避難所を開設しました。

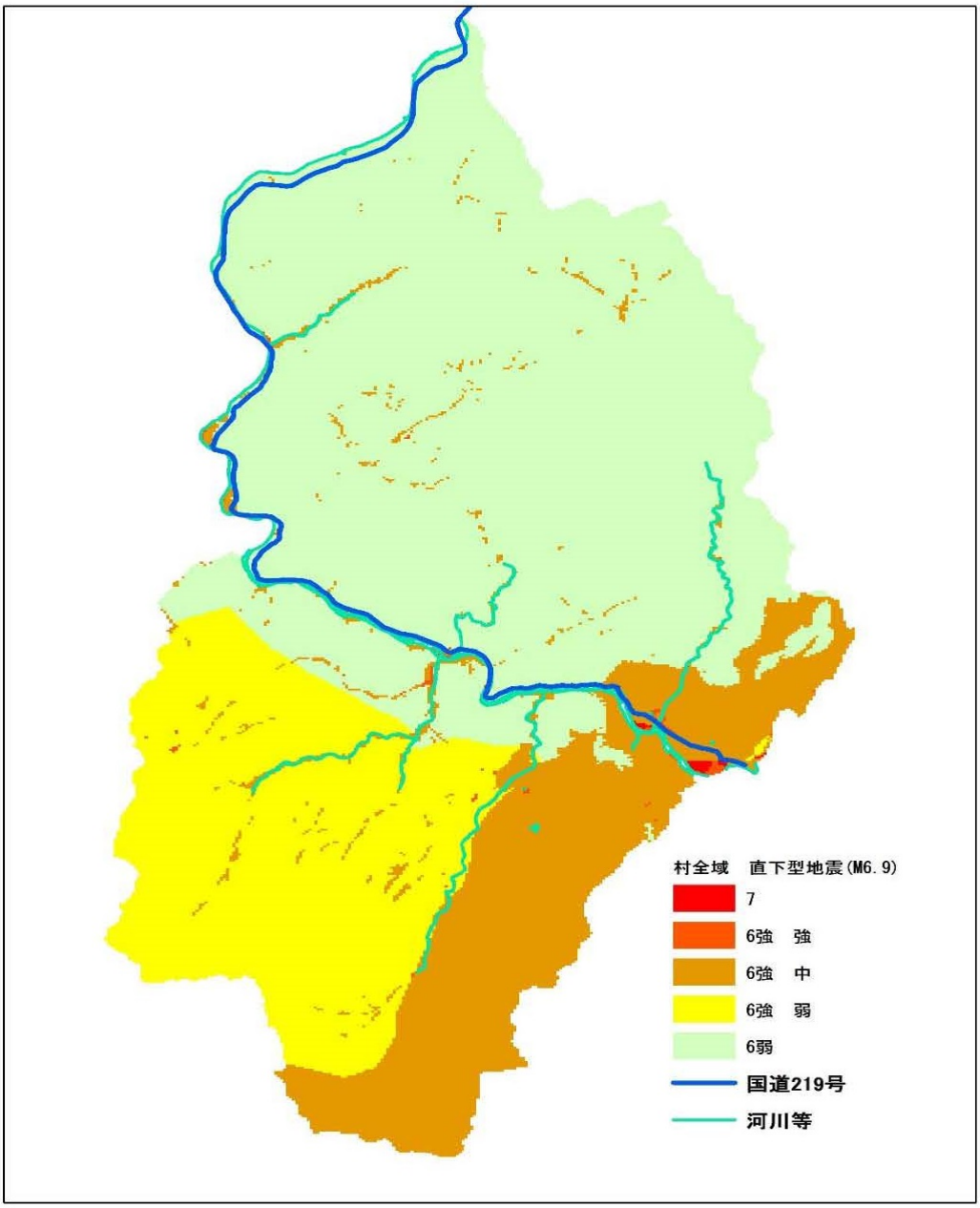
図表資-3　本村の被害状況

項目		状況
人的被害	死者数	－
	負傷者数	－
住家被害	全壊	－
	半壊	－
	一部破損	－
避難所・避難者	避難所	５箇所開設 平成 28 年 4 月 20 日（水曜日）18 時から 平成 28 年 4 月 25 日 18 時（全避難所を一旦閉鎖） その後、「高齢者福祉センターせせらぎ」１箇所を当分の間、自主避難所として開放した。 渡地区：渡多目的集会施設 一勝地・三ケ浦地区：高齢者生活福祉センターせせらぎ 球磨村公民館高沢分館 田舎の体験交流館さんがうら 神瀬地区：神瀬多目的集会施設
	避難者数	延べ人数 302 人（19 日間）

３．球磨村建築物耐震改修促進計画の地震想定

「球磨村建築物耐震改修促進計画　平成 29 年 2 月」では、断層の確認ができていない場所でも地震が起こりうることを想定し、その場合に想定できる最大エネルギーであるマグニチュード 6.9 を設定した揺れやすさを解析しています。その結果、球磨川沿川の一部で震度 7 の揺れが発生することが予測されています。

図表資-4　マグニチュード 6.9 直下型地震での揺れやすさ



４．球磨川水系における想定最大規模の洪水

平成 29 年 3 月 29 日に国土交通省九州地方整備局八代河川国道事務所より公表された球磨川水系球磨川洪水浸水想定区域図（想定最大規模）は次ページのとおりです。

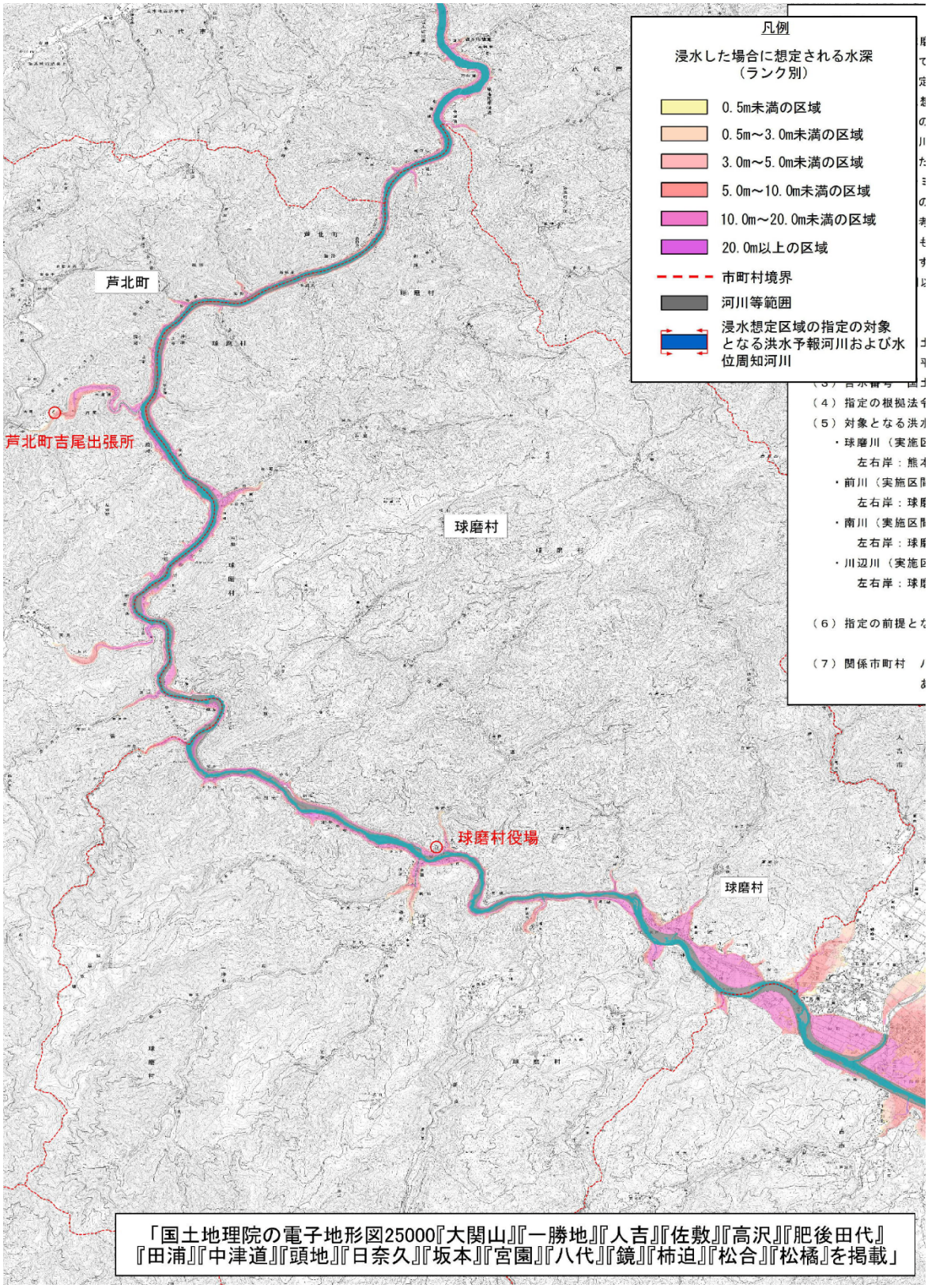
資料：国土交通省九州地方整備局八代河川国道事務所ＨＰより

球磨川水系における想定最大規模の洪水浸水想定区域の公表について
～的確かつ主体的な避難行動を支援する災害リスク情報の周知～

平成 29 年 3 月 29 日国土交通省九州地方整備局八代河川国道事務所

〇平成 27 年 5 月の水防法改正に基づき、想定最大規模の降雨により河川が氾濫した場合の浸水想定区域を新たに指定し、その範囲を図面等により公表しました。
〇昨年 8 月に「球磨川水系水防災意識社会再構築会議」で策定した減災に係る取組方針のもと、今後、本情報をもとに水害リスク情報の周知と住民等の防災意識醸成に取り組み、主体的な避難の実現を支援し、災害に強い地域づくりを推進します。

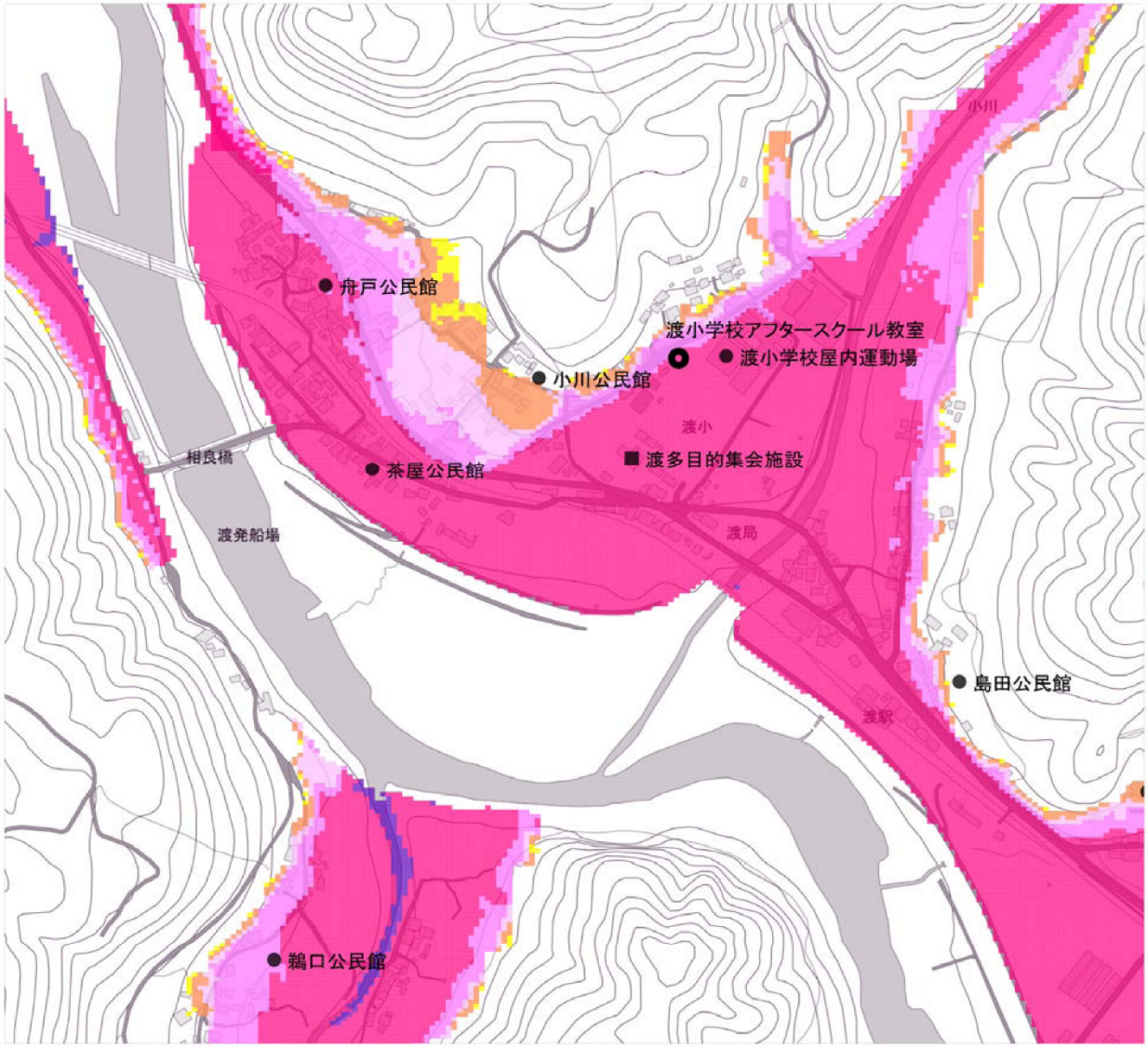
図表資-5　球磨川水系球磨川洪水浸水想定区域図（想定最大規模）



資料：国土交通省九州地方整備局八代河川国道事務所
平成 29 年 3 月 29 日
球磨川水系における想定最大規模の洪水浸水想定区域の公表について
～的確かつ主体的な避難行動を支援する災害リスク情報の周知～
http://www.qsr.mlit.go.jp/yatusiro/bousai/kuma_shinsui.html

＜指定緊急避難場所等周辺の拡大図＞

・渡地区周辺



浸水深ランク

凡例

1 0.5m未満の区域
2 0.5m～3.0m未満の区域
3 3.0m～5.0m未満の区域
4 5.0m～10.0m未満の区域
5 10.0m～200m未満の区域
6 20.0m以上の区域

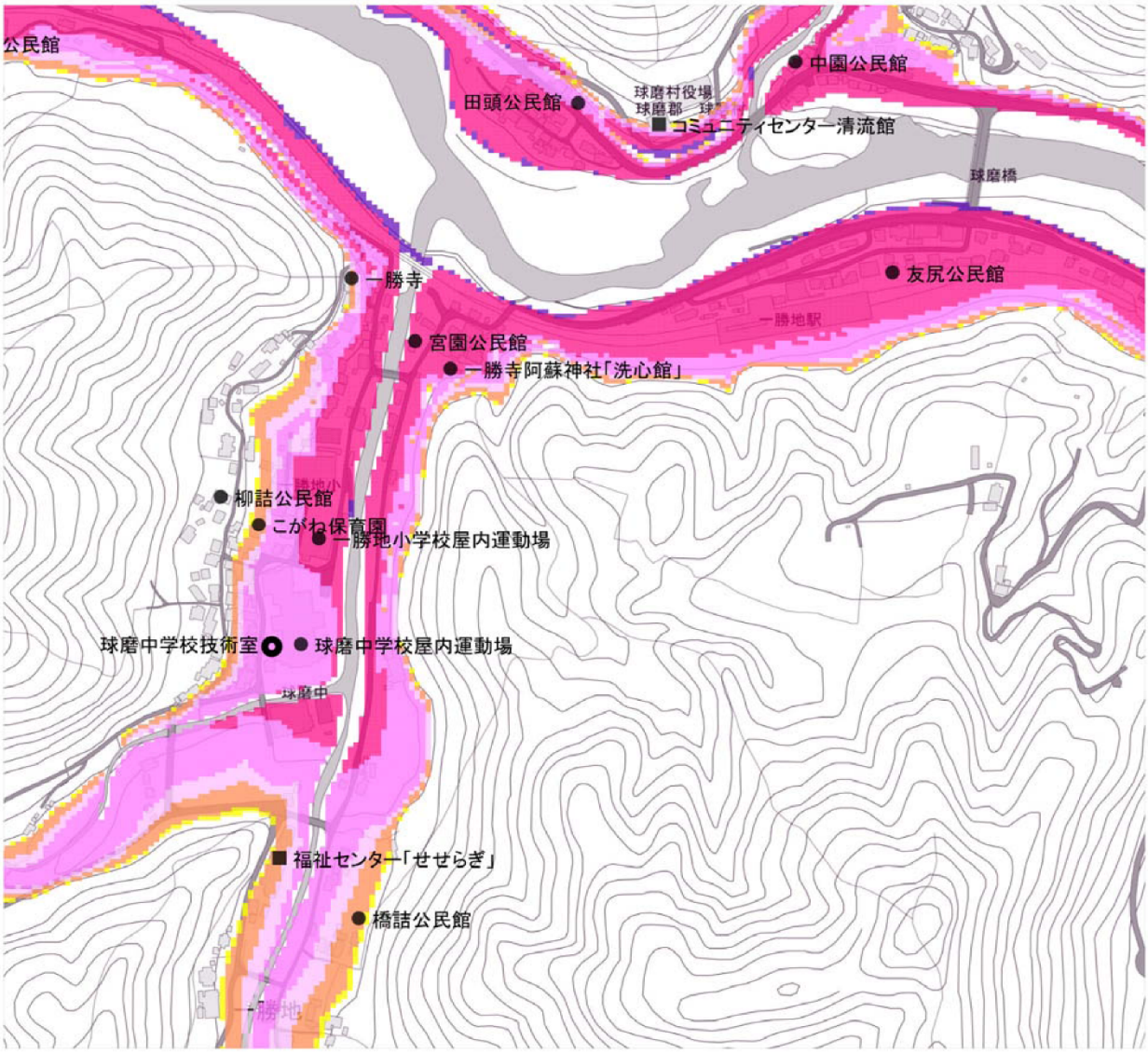
N
W E
S

1:7500

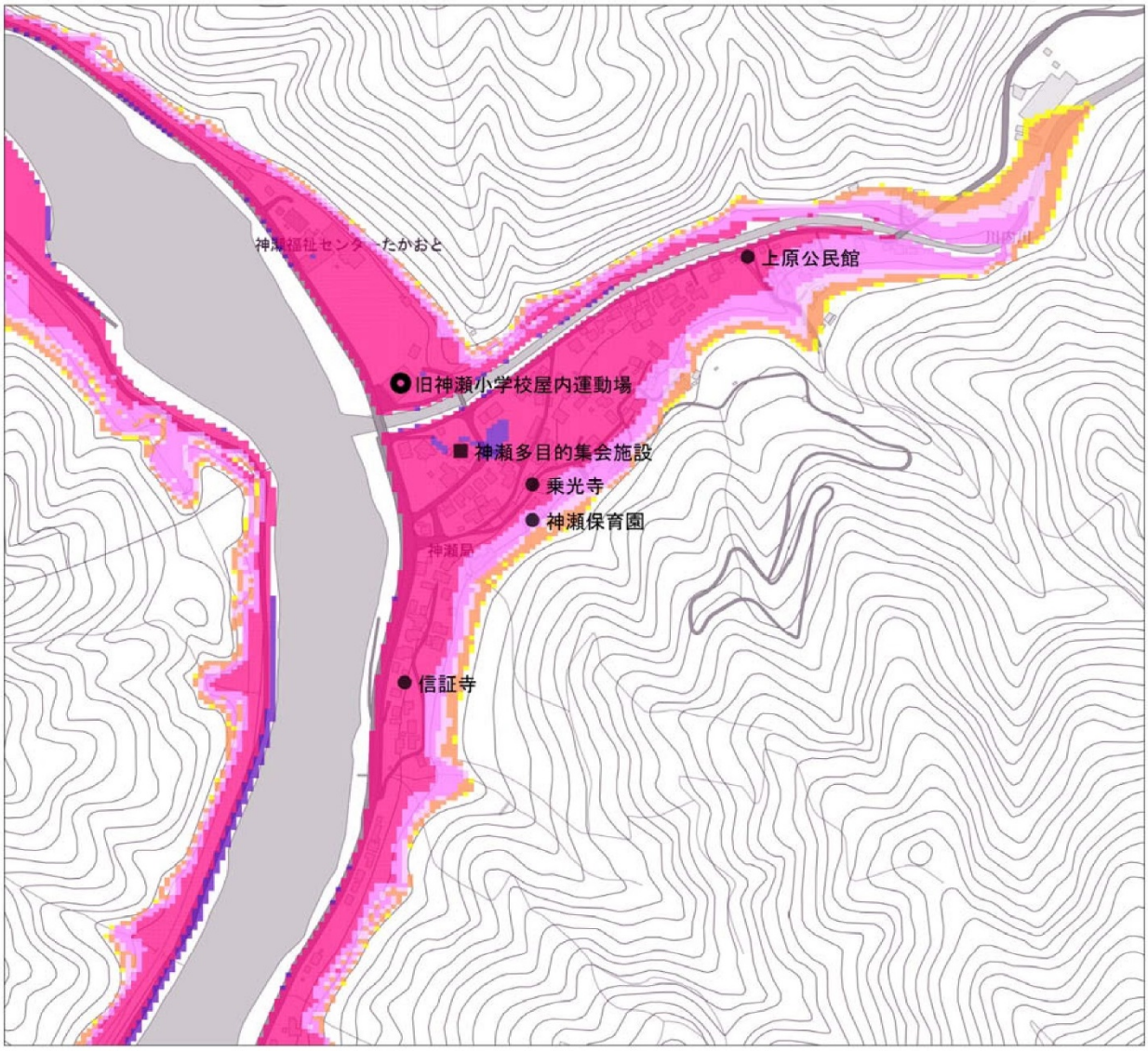
0 100 200 300m

※この地図は、国土交通省九州地方整備局八代河川国道事務所より提供された浸水想定のデータに、本村所有の地形図を重ね合わせたものです。

・一勝地地区周辺


公民館
中園公民館
田頭公民館
球磨村役場
球磨郡　球
コミュニティセンター清流館
球磨橋
一勝寺
友尻公民館
一勝地駅
宮園公民館
一勝寺阿蘇神社「洗心館」
柳詰公民館
こがね保育園
一勝地小学校屋内運動場
球磨中学校技術室
球磨中学校屋内運動場
球磨中
福祉センター「せせらぎ」
橋詰公民館
浸水深ランク
凡例
1　0.5m未満の区域
2　0.5m～3.0m未満の区域
3　3.0m～5.0m未満の区域
4　5.0m～10.0m未満の区域
5　10.0m～200m未満の区域
6　20.0m以上の区域
N
W
E
S
1:7500
0
100
200
300m

・神瀬地区周辺



浸水深ランク

凡例

1 0.5m未満の区域
2 0.5m～3.0m未満の区域
3 3.0m～5.0m未満の区域
4 5.0m～10.0m未満の区域
5 10.0m～200m未満の区域
6 20.0m以上の区域

N
W E
S

1:7500

0 100 200 300m

５．計画策定にあたって

１）策定の経緯

計画策定にあたっては、各ブロック事務長、各課の代表職員からなる検討会と、各課長からなる策定会議を編成し検討しました。

図表資-6　検討会議の経緯

開催日	場所	検討内容
平成 29 年 6 月 27 日 （火曜日）午後 2 時～	庁舎３階 小会議室	第１回検討会議 ①　プロジェクトチームについて ②　復興まちづくり計画について
平成 29 年 7 月 11 日 （火曜日）午後 2 時～	庁舎３階 小会議室	第２回検討会議 ①　復興まちづくり計画について ②　計画策定スケジュールについて ③　その他
平成 29 年 8 月 10 日 （木曜日）午前 10 時～	庁舎３階 談話室	第３回検討会議 ①　復興まちづくり計画について ②　計画策定スケジュールについて

図表資-7　策定会議の経緯

開催日	場所	検討内容
平成 29 年 8 月 17 日 （木曜日）午後 3 時～	庁舎３階 小会議室	第１回策定会議 ①　プロジェクトチームについて ②　復興まちづくり計画について ③　計画策定スケジュールについて ④　球磨村復興まちづくり計画（素案）について ⑤　その他
平成 29 年 8 月 23 日 （水曜日）午前 10 時～	庁舎３階 小会議室	第２回策定会議 ①　球磨村復興まちづくり計画（素案）について ②　今後のスケジュールについて